

<2004年7月6日プレスリリース>

<http://www.nkk.affrc.go.jp/topics/press/h16/0706/0706.html>

環境勘定による農業・農村の多面的機能の評価
－新たな手法で再評価－

<当該研究成果のポイント>

独立行政法人農業工学研究所では、農業・農村のもつ多面的機能について、個別機能の評価手法を精緻化するとともに、新たに環境勘定手法を導入して総合的に評価する手法を開発しました。

多面的機能の評価については、これまで、OECDの農業環境指標の議論や、平成13年の日本学術会議の答申などで、経済評価の必要性やその困難性、プラス面だけでなくマイナス面を含めた評価の必要性などの問題が提起されています。今回は、これらの問題を含め、各機能の評価について精緻化と、総合評価のための新たな手法の開発に取り組んだものです。

個別機能の評価については、土壌侵食防止、水質浄化など13の機能を取り上げ、新たな手法により各機能を定量的に再評価しました。総合評価では、これらの内10機能を取り上げ、各機能について代替法とCVMを組み合わせ、経済的評価を行うとともに、農林業部門による環境便益（多面的機能の経済的評価）と環境負荷（マイナス部分）を取り入れた環境経済統合勘定を開発し、全国レベルで環境への正と負の影響を含めた総合的経済評価を可能とする手法を開発しました。本手法を用いて、1995年の日本全国で試算したところ、環境負荷は10兆590億円、環境便益は47兆6260億円、総計約37兆円との試算結果を得ました。

<期待される効果・今後の展開など>

環境便益と環境負荷を総合的に評価する環境勘定手法により、農業や農村に関する各種施策について、プラス面とマイナス面の双方から環境への影響を検討する枠組みを提示できました。この枠組みは、農業農村整備事業をはじめとする各種制度の検討への活用や、地域ごとの様々な機能の維持・向上のための技術開発の促進、さらに農村の有する地域資源の保全や活用に向けた施策の推進に貢献することが期待されます。

<研究所名>（独）農業工学研究所

<担当者名> 農業工学研究所 農村環境部長 長利 洋

<連絡先> 農業工学研究所 企画調整部 情報資料課 野々上三四志
電話 029-838-8169